

■資料－1 大学改革推進等補助金の実績報告書(平成30年度)

補助事業の実績	補助事業に係る具体的な成果
<p>本補助事業は、事業協働地域(広島広域都市圏及び尾道市)の課題である人口流出を観光資源の活用によって改善することを目指し、全学共通系科目及び学部専門科目を体系的に再編成し、地域の課題解決に資する能力を養成する教育カリキュラムを実施することで、「地域に愛着・誇りを持ち、地域に根付き、地域の発展に貢献する人材」を育成することを目的としている。</p> <p>本年度の目的は、主に平成29年度において実施した各事業項目の内容を発展的に充実させるとともに、最終年度以降の展開に向けての検証と準備を行うことである。</p> <p>まず、教育カリキュラム等については、地域貢献特定プログラムの科目として新たに「地域実践演習」を各学部の専門科目として開講するとともに、平成29年度に引き続き、COC+参加校間で締結した地域志向科目の単位互換に関する協定に基づき、単位互換制度を実施する。また、インターンシップについては、本学のキャリア教育科目の見直しを進めるとともに、事業協働機関である中国経済連合会と協力し、参加大学と連携して低学年を対象とする短期のインターンシップを実施するなど、学生が地域企業への関心を高める取組の充実を図る。</p> <p>観光関連データベースについては、事業協働機関の自治体、企業等から収集した観光関連データ及び本学情報科学部教員が収集したSNSデータの登録件数が約55万件に達し、データの登録を概ね完了したことから、協働協議会の参加機関への閲覧を開始する。</p> <p>教育研究事業については、学内特定研究の実施、宮島に開設した教育研究施設を活用した活動を実施するとともに、アートプロジェクトを地域を拡大して実施する。また、参加校による協働研究事業を進めるとともに、平成29年度に引き続き、観光をテーマにした研究・活動の合同発表会や参加自治体におけるサテライト講座を実施する。</p> <p>事業の運営について、COC+事業協働地域協議会、COC+教育プログラム開発委員会等を開催するとともに、ホームページやニュースレターの発行等により、本事業の協働地域内での一層の浸透や事業推進の円滑化を図る。</p>	<p>本事業の平成30年度の取り組みは、各事業項目を安定的、発展的に実施していくとともに、最終年度以降の継続性を図るため、検証や準備を行うことである。</p> <p>教育カリキュラムについては、新たに「地域実践演習」を開講し、地域貢献特定プログラム全体として23科目を実施し、延べ1,376名の受講があった。</p> <p>参加校間の単位互換協定に基づき、地域志向科目18科目の互換を行い、7校から10名の履修があった。</p> <p>本学の全教職員を対象にしたFD・SD研修を2回実施し(12月、3月)、内容を学内Webでの映像により常時視聴ができる態勢にした。</p> <p>本学のキャリア関連科目の見直しを行い、平成31年度から実施する態勢を整えた。参加企業・自治体へのインターンシップについては、本学では59名が参加した。また、地元経営者パネル討論会を開催し、70名の教職員が参加した。</p> <p>寄付講座として、「マツダ・広島市立大学芸術学部共創ゼミ」を実施(2年目)し、学生11名が履修した。</p> <p>観光関連データベースについては、平成30年度において約60万件以上のコンテンツを登録し、地域課題演習や観光情報学での演習素材として利活用を行った。また、利用規定やマニュアルを作成し、事業協働機関(大学、自治体)への閲覧を開始した。</p> <p>「COC+特色研究(特定研究を改称)」について2件の研究テーマを採択し実施した。「社会連携プロジェクト」について6件の事業を採択し実施した。また、学生による地域貢献事業「市大生チャレンジ事業」を3件実施した。</p> <p>平成28年度に開設した「広島市立大学COC+宮島教育研究施設」(通称、サテライトハウス宮島)について、アートプロジェクトや市民向け講座などの活用を進めた。</p> <p>芸術学部を中心としたアートプロジェクトについては、新たな地域を追加して6地域において10のプロジェクトを実施し、芸術学部の全10専攻の学生・教員約140名以上が参加した。参加校3大学とも協働し、市民の参加者数は合計4,453人となった。</p> <p>参加校による地域志向の教育研究等のプログラムを、協働または単独で8件実施した。</p> <p>「大学連携による学生の観光研究・活動発表会」を12月に実施し、7大学から学生64名、教員は21名が参加。観光に関する12の研究・活動成果を発表した。</p> <p>高校生の地域内進学を促進するサテライト講座を柳井市において3回開講し、高校の生徒・教員等53名の参加があった。</p> <p>広報について、ニュースレターを2回(12月、3月)発行したほか、大学広報誌や、専用ホームページでの情報提供を随時行った。</p> <p>事業協働協議会を平成31年1月に開催し、26機関43名の参加により事業の進捗状況等について報告や意見交換を行った。</p> <p>COC+フォーラムを長崎大学との共催により平成30年11月に実施し、事業協働機関及び観光事業関係者など67名の参加があった。</p> <p>事業推進体制として、担当特任教授等6名を継続雇用した。</p> <p>COC+外部評価委員会を7月に開催し、平成29年度の事業の評価を受けた。</p>

<p>① 4月～3月 平成27年度に策定したCOC+教育プログラム(地域貢献特定プログラム)の「広島を知る」科目の「広島の観光学」、「ひろしま論」、「広島の産業と技術」、「創作と人間」、「NPO論」、「地域再生論入門」、「広島を感じる」科目の「地域課題演習」、「広島を問う」科目の「地域再生論」、「非営利組織論ⅠⅡ」、「交通論」、「スポーツ文化経営論」、「フィールドワーク論」、「経営史」、「観光情報学」、「インターンシップ」「アートマネジメント概論」、「造形応用研究ⅠⅡ」を実施。また、本年度は「広島を問う」科目の「地域実践演習」を新たに開講</p> <p>地域貢献特定プログラムにより、「広島を知る」6科目、「広島を感じる」1科目、「広島を問う」16科目の全23科目を実施し、延べ1,376名の受講があった。 履修後のアンケート結果において、殆どの学生が地域への関心度を高めたと答え、地域マインドの醸成に一定の成果が確認できた。 平成28年度入学生が3年間の履修を終え、地域貢献特定プログラムを修得したと認定された学生は35名となった。</p>	<p>本COC+の教育カリキュラムである地域貢献特定プログラムは、地域志向型科目として「広島を知る」「広島を感じる」「広島を問う」「広島に挑戦する」という4つのステップを、全学共通系科目や専門教育科目において学習・経験できるよう編成している。 平成30年度の前後期を通じた実施内容は次のとおり。 「広島を知る」科目では、「地域再生論入門」「広島の産業と技術」「広島の観光学」「ひろしま論」など計6科目を開講した。履修者は、「地域再生論入門」が前年度の22名から75名に増えるなど、6科目全体で、前年度の884名から937名へ増加した。 「広島を感じる」科目では、「地域課題演習」において前年度より演習テーマを増やして7つのテーマを実施し、54名が参加し、現地での活動や考察を通じて地域の魅力や課題についての理解を深めた。 「広島を問う」科目では、新たに専門教育科目の「地域実践演習」を開講し、対象地域の課題解決を目指して3学部合計34名が取り組んだ。このほか新たに情報科学部の「インターンシップ」や芸術学部の「造形応用研究Ⅰ」を開講した。これらを含め、「観光情報学」「地域再生論」「フィールドワーク論」など計16科目を開講した。 以上の23科目に延べ1,376名の受講があり、総合的に地域社会への理解を深めた。履修後に地域への関心度を聞いたアンケート結果では、関心が「非常に高まった」「高まった」と答えた学生が「地域課題演習」では90%、「地域再生論入門」では88%、「広島の観光学」では95%となるなど、地域志向マインドの醸成に一定の成果があった。 また、地域貢献特定プログラムの実施が3年を経過し、平成28年度入学生が3年間の履修を終え、プログラムを修得したと認定される単位取得要件(演習を含む8単位以上)を満たした学生は35名となった。</p>
<p>② 4月～3月 平成28年度に参加校間で締結した、地域志向科目の単位互換に関する協定に基づき、単位互換を実施</p> <p>参加校9校による単位互換協定に基づき、7校から18科目の提供があり、10名が履修した。</p>	<p>科目の提供校が前年度より1校増えて7校となり、提供された全18科目に対して、7校から10名が履修した。 履修科目は広島経済大学の「広島を学ぶ」、安田女子大学の「観光政策論」、広島市立大学の「創作と人間」「広島の観光学」「広島の産業と技術」「観光情報学」であり、「観光情報学」は広島経済大学からの講師派遣の協力を得て実施した。</p>
<p>③ 9月・2月 本学の全教職員を対象とした本事業の実施に関するファカルティ・ディベロップメント(FD)として、全学COC+研修会(2回)の開催</p> <p>第1回を平成30年12月11日に実施し、37名の参加・視聴があった。 第2回を平成31年3月26日に実施し、58名の参加・視聴があった。</p>	<p>全学FD・SD研修会の開催により、学内でのCOC+の事業推進状況や地域教育への理解を深めた。参加できなかった教職員に対して、学内Webでの研修の動画が常時視聴ができる態勢にしている。 第1回の内容は、「高知県立大学における地域社会志向教育の取組」をテーマに、地域教育センターの役割と域学共生教育の成果について、公立大学としての取組のあり方について事例に学んだ(講師は高知県立大学地域教育センター長の清原泰治教授)。 第2回の内容は、「地域貢献特定プログラムの成果と課題」をテーマに、COC+校における今後の地域教育の充実に向けて、改善への課題等を共有した(報告者は社会連携センターの國本善平特任教授)。</p>
<p>④ 8月～2月 COC+参加企業・自治体へのインターンシップを引き続き実施。さらに新たに中国経済連合会と協力し、参加校と連携して低学年向けインターンシップを実施</p> <p>COC+校における事業協働機関へのインターンシップの参加者数は59名であった。 キャリア教育の見直しを行い、低学年教育を強化するプログラムを平成31年度から実施する態勢を整えた。</p>	<p>事業協働機関へインターンシップの受け入れを働きかけ、COC+校における平成30年度の参加学生数は前年度58名と同程度の59名となった。(広島地方の豪雨災害のボランティア活動に夏季のインターンシップを振り替えた学生がいたため)。 COC+校においてキャリア教育の見直しを行い、低学年のインターンシップを強化するキャリア開発プログラムを構築し、平成31年度からの実施に備えた。</p>
<p>⑤ 4月～12月 本学のキャリア教育科目の見直しを検討するとともに、経営者を招き、学生と意見交換する会の実施</p> <p>事業協働機関である中国経済連合会によるインターンシップ事業(働く魅力を知る企業訪問)に、51名の学生・教職員が参加した。 COC+校において、「地元企業経営者パネル討論会」を開催し、参加企業は3社、参加学生・教員は70名であった。</p>	<p>平成28年度から事業協働機関である中国経済連合会の人材育成専門部会において、企業関係者と地元企業におけるインターンシップを活用した学生の地元定着意識の醸成を図る方策を検討し、平成29年度にその具体化として、企業経営者と学生が懇談を通じて働く意義を考える事業を開始した。平成30年度はこの事業に51名の学生・教職員の参加があった。 COC+校で実施した「地元企業経営者パネル討論会」に70名の学生・教職員が参加し、学生と企業経営者との活発な意見交換があり、地域での企業経営の意義と課題について理解を深めた。</p>

<p>⑥ 4月～3月 平成29年度に引き続き寄付講座の実施</p> <p>「マツダ・広島市立大学芸術学部共創ゼミ」を実施し、学生11名が履修し、6名が最終作品発表会に臨んだ。</p>	<p>広島が世界に誇れるモノづくりの拠点となる人材育成を目指し、「マツダ・広島市立大学芸術学部共創ゼミ」を平成29年度に開講した。芸術学部を持つ本学ならではの取り組みであり、専攻を超えて、平成30年度は学生11名が実践的な学びや制作を行い、6名が最終作品発表会に臨んだ。学生は地元製造業のトップデザイナーからの厳しい指導を受け、自らのデザインが実社会で受け入れられるための方法論を学んだ。</p>
<p>⑦ 4月～3月 (一社)しまなみジャパンと協働して、しまなみ海道サイクリングにおけるGPS位置データ(観光客の行動情報)の収集を行うとともに、観光関連データベースを「観光情報学」の講義・実習等で活用</p> <p>しまなみジャパンと協働して観光サイクリストの行動情報収集調査事業を行った。平成30年度末までに観光関連データ60万件以上の登録を実施した。また、地域課題演習や観光情報学での演習素材としても利活用を実施した。</p>	<p>事業協働機関である(一社)しまなみジャパンと協働し、しまなみ海道を訪れる観光サイクリストの行動情報をGPS位置データにより収集する調査事業を実施し、尾道市の観光振興の一助とした。</p> <p>観光関連データについては、SNS情報を中心にコンテンツの登録を進め、平成30年度末現在で総数60万件以上の観光関連データの登録が完了している。登録した観光関連データの教育研究での利活用を進め、地域課題演習や観光情報学での演習素材とした。</p>
<p>⑧ 4月 参加校・企業・自治体に対するデータベースの閲覧を開始</p> <p>平成30年度にセキュリティ運用のルールなどを策定し、事業協働機関への閲覧を開始した。</p>	<p>観光関連データベースの利用マニュアルや利用規定を策定し、事業協働機関向けのユーザID/Passの配布準備を行い、事業協働機関への閲覧を開始した(参加校及び自治体に対して先行して公開した)。</p>
<p>⑨ 4月～3月 学内特色研究費(大学資金)「COC+事業の推進に寄与する研究費」を公募し研究を実施するとともに、学内事業(大学資金)「社会連携プロジェクト」において「COC+関連プロジェクト」を公募しプロジェクトを実施</p> <p>「COC+特色研究(特定研究を改称)」について2件の研究テーマを採択し、「社会連携プロジェクト」に6件の事業を採択し、それぞれ実施した。また、学生による地域貢献事業「市大生チャレンジ事業」を3件実施した。</p>	<p>学内資金により、次のとおり地域に関わる研究や社会連携・貢献活動を実施した。</p> <p>「COC+特色研究」は、「季節イベントに関する旅行ブログの自動検出」、「基町高層アパートの建築とコミュニティの文化社会学的検証」の2件。</p> <p>「社会連携プロジェクト」は、「瀬戸内の魅力発信プロジェクト」、「尾道市立大学と連携した空き家再生事業」など6件。</p> <p>「市大生チャレンジ事業」は、「ワークショップを通じた基町の地域活性化」、「ヒロシマピースキャンプ」など3件。</p> <p>実施されたテーマにはいずれも学生が参加し、地域活動を伴ったものとなっている。</p>
<p>⑩ 4月～3月 平成28年度に廿日市市宮島に開設した広島市立大学COC+宮島教育研究施設(通称「サテライトハウス宮島」)を拠点とした活動と管理運営</p> <p>宮島における教育研究拠点として、参加校の利用も含め、芸術制作・展示、市民講座、フィールドワーク等の活用を行った。</p>	<p>廿日市市宮島町の歴史のある町家建築を一部改装し、本学と参加校の学生・教員が宮島での教育研究活動を行う施設として「広島市立大学COC+宮島教育研究施設(通称、サテライトハウス宮島)」を平成28年度に開設し、活用を進めている。平成30年度の主な活用状況は次のとおり。</p> <p>アートプロジェクト制作・展示、芸術学部の地域実践演習、市民向け講座(広島工業大学土曜講座)、観光に関する学生の研究・活動発表会、その他、大学の地域教育活動の拠点として活用。</p>

<p>⑪ 4月～3月 アートプロジェクトを広島市中心部、廿日市市宮島、尾道市、北広島町、安芸太田町において引き続き実施するほか、新たに柳井市で実施</p> <p>新たに1地域を加え、6地域で10のアートプロジェクトを実施し、芸術学部の全10専攻の学生・教員140名以上が参加した。市民参加者数は合計4,453人となった。また、芸術による地域貢献活動として、企業や地域とコラボレーションして5件の事業を実施した。</p>	<p>「広島ニュートラベル」のテーマの下に、瀬戸内海や都市部、中山間地の各地域において、アート活動により人をいざない交流を進めることをコンセプトに、芸術学部が参加大学や地域と協働しながら、作品制作・展示・ワークショップ、地域活動等を実施した。新たな地域として柳井市を加えた6地域で行った。</p> <p>10プロジェクトの概要(テーマ/地域/内容/専攻)は以下のとおり。</p> <p>①宮島ものづくり産業復興プロジェクト/廿日市市/後継者不足の宮島ろくろの技術習得など/漆造形 ②宮島金工プロジェクト/廿日市市/金属素材を用いた宮島のオリジナルグッズの制作・展示/金属造形 ③尾道プロジェクト/尾道市/アートによる空き家再生/現代表現(尾道市立大学と協働) ④尾道風景画プロジェクト/尾道市/尾道の風景をテーマに街の魅力を伝える/日本画 ⑤柳井プロジェクト/柳井市/金魚ちょうちんの新しい彩色デザインを提案し祭りに合わせて展示/立体造形 ⑥基町プロジェクト/広島市/高齢化した都心の住宅団地の活性化、コミュニティデザイン/芸術学部共同(広島修道大学、安田女子大学と協働) ⑦西国街道マンホールデザインプロジェクト/広島市/広島城下の旧街道の通りに設置するマンホール蓋のデザインを考案し広島市が設置/視覚造形 ⑧広島ピースプロジェクト/広島市/NHK広島放送局と協働し「ヒバクシャからの手紙」の映像を制作/映像メディア造形 ⑨筏津プロジェクト/北広島町/筏津芸術村に滞在し現地の素材でモニュメントを制作・設置/彫刻 ⑩安芸太田染織プロジェクト/安芸太田町/地域の歴史や伝統をテーマに染織作品を制作・展示/染色造形</p> <p>プロジェクト全体を通して、学生・教員140名以上が参加し、作品の展示、交流等に参加した住民の数は4,453人となった。また、芸術学部の学生・教員・OBによる地域貢献活動を、事業協働機関のホテルへの壁画制作など企業とのコラボレーションを3件、広島市動物公園へのモニュメント制作など地域とのコラボレーションを2件実施した。</p>
<p>⑫ 4月～3月 参加校による協働研究事業を実施</p> <p>参加校が地域やCOC+校と協働して、学生が地域活動に参加する教育研究プログラムを8件実施した。</p>	<p>参加校の学部構成や教育方針のもとに、COC+の対象地域において、多くの学生が地域活動に参加する事業を展開した。以下、校名/地域/テーマ/実施形態。</p> <p>①広島大学/呉市/コンテンツツーリズムを活用した地域活性化/調査研究 ②尾道市立大学/尾道市/アートプロジェクト(空き家再生)の実施/地域デザイン(広島市立大学と協働) ③広島経済大学/廿日市市等/学生による観光資源等の再発見と発信/調査研究 ④広島工業大学/廿日市市/宮島土曜講座/市民向け講座 ⑤広島国際大学/安芸太田町・呉市/中山間地域と島しょ部との交流による地域活性化プロジェクト/地域支援 ⑥広島修道大学/広島市/基町プロジェクト「もとまちカフェ」/地域交流(広島市立大学と協働) ⑦安田女子大学/同上/基町プロジェクト「グローバルキッチンプロジェクト」/食文化交流(広島市立大学と協働) ⑧広島商船高等専門学校/大崎上島町/高齢者健康調査/地域支援</p>
<p>⑬ 12月 観光に関する学生の研究・活動発表会を実施</p> <p>COC+校の呼びかけにより、参加校6大学と比治山大学(協力校)が合同して、「大学連携による学生の観光研究・活動発表会」を平成30年12月に実施。参加学生64名、教員21名。観光に関する12の研究・活動成果を発表し、交流を深めた。</p>	<p>学生の観光に関する学習・研究意欲を高め、地域を志向するマインドやネットワークの醸成を図るため、広島市立大学が企画し、COC+の参加6大学と比治山大学(協力校)が合同で実施した。観光に関連する学生の研究や活動に関する広島地域では唯一の大学間交流事業となっている。開催は平成30年12月8日と9日の2日間、会場は、廿日市市の広島経済大学の宮島セミナーハウス成風館。参加した学生は64名、教員は21名。</p> <p>発表されたテーマは12件。各大学のテーマ設定は、地域への関わり方や分析や考察の方法に特徴があり、多彩なプレゼンテーションが行われた。併せて宮島の景観保存や空間特性などの現地講座と視察を実施した。参加学生のアンケートとして、96%が「他大学との交流により学習・研究上の刺激を受けた」、97%が「広島地域の関心を高めた」と回答した。</p>

<p>⑭ 9月～12月 参加自治体と協働してサテライト講座を実施</p> <p>高校生の地域内進学と卒業後の地域定着を図るため、柳井市広域圏1市4町の高校生を対象にサテライト公開講座と広島地域の大学説明を3回実施した。参加者は生徒、教員、保護者等53名。</p>	<p>事業協働地域の若い世代の人口流出を防ぎ、地元への定着をいかに図るかが課題となっており、その対策の一つとして、高校生の地域内への進学を促し、ひいては地域内での就職につながるものとして企画し、柳井市と協働して実施した。対象は柳井市広域圏1市4町の7校の高校生と保護者で、参加者は53名。講座は3回開催し、広島市立大学の教員が担当した(内容はアートディレクション、歩行による個人認証の情報技術、アフリカ地域研究入門)。 広島地域に所在する各大学の説明・紹介を行い地域内進学を促した。</p>
<p>⑮ 9月・3月 事業広報のためニュースレターを発行(2回)。4～3月 平成27年度に開設したホームページの更新</p> <p>ニュースレターを2回発行した(12、3月)。 大学広報誌や専用ホームページにより随時広報に努めた。</p>	<p>ニュースレターの発行は、平成30年12月に第9号(地域課題演習、学生の観光研究活動発表会等)、平成31年3月に第10号(アートプロジェクト、地域貢献特定プログラム等)をA4版4ページで発行し、配布した(各3000部)。 事業活動の紹介として大学広報誌やパブリシティを活用するとともに、COC+の専用ホームページを随時更新し情報提供に努めた。</p>
<p>⑯ 1月 COC+事業協働協議会の開催(1回)</p> <p>事業協働協議会の会議を平成31年1月に開催し、26機関から43名の参加があり、平成30年度事業の実施状況について報告し、平成31年度の事業計画案を承認した。</p>	<p>事業協働協議会の会議を、平成31年1月24日に広島市立大学サテライトキャンパスにおいて開催した。協議内容は、平成30年度事業の実施状況、平成31年度の事業計画案、平成29年度の外部評価結果の報告であり、事業の進捗状況と今後の展開等について情報を共有し意見の交換を行った。参加は26の協働機関から43名であった(平成29年度は31の協働機関から48名)。併せて、地域活動の報告として、アートプロジェクト(芸術学部金属造形の学生による宮島金工プロジェクトの実施状況と作品展示)、地域課題演習(国際学部及び芸術学部の学生による三原市佐木島での演習内容と観光に関する提案)の2件の発表を行った。</p>
<p>⑰ 11月 参加校・企業・自治体に呼びかけCOC+フォーラムを開催(1回)</p> <p>「COC+フォーラム2018」を平成30年11月に開催し、自治体、観光事業関係者を中心に67名の参加があった。</p>	<p>COC+フォーラム2018を、長崎大学との共催、観光情報学会等の後援により、平成30年11月16日に広島市総合福祉センターホールにおいて開催した。 テーマは「ICTによる観光情報を活用した観光振興」とし、観光業界の課題である科学的な施策立案やデータによる経営イノベーションなど、業務改善の参考となる先駆的な4つの事例を紹介して知見を共有した。参加者は自治体、観光事業関係者、大学など67名。アンケートでは、88%の参加者が満足度が高いと回答した。</p>
<p>⑱ 4月～3月 事業の調整、実施、進行管理にあたるCOC+を担当する教員6名を継続雇用</p> <p>前年度に引き続き、COC+推進コーディネーター等6名を雇用した。</p>	<p>平成29年度に引き続いて、COC+推進コーディネーター(特任教授)1名、教育研究担当特任教授1名、事業協働地域調整担当特任准教授1名、教育研究担当特任助教1名、観光関連データベース担当特任助教1名、アートプロジェクト担当特任助教1名を雇用し、全体で6名の体制で事業を推進した。</p>
<p>⑲ 6月 COC+外部評価委員会を開催し、平成29年度事業の評価と評価報告書を作成</p> <p>COC+外部評価委員会を平成30年7月に開催し、平成29年度事業の実施状況について、「A計画を上回った実績を挙げている」との評価を受けた。</p>	<p>COC+外部評価委員会(委員長は神戸市外国語大学名誉教授船山仲他氏ほか委員4名)を、平成30年7月18日に開催した。 平成29年度事業の評価結果は、『事業を安定的に推進するとともに、従前の課題を解決しながら積極的に事業の改善や新しい企画に取り組んだ。特に、事業の重要な柱である「教育カリキュラムの整備・推進」と「観光振興を目的とした教育研究事業の立案・推進」において、事業内容を拡充して実施した。こうした、当初計画の着実な実施及び付加的な実施により、平成30年度以降の取組において、さらに事業全体の熟度を高めることに弾みを付けたと評価する』として、総合評価は「A計画を上回った実績を挙げている」とされた。 また、平成29年度の事業報告書を作成し、外部評価委員会に提出した。</p>

■資料-2 事業費の状況

(円)

	平成 29 年度						平成 30 年度		
	交付決定に係る補助 対象経費の額	補助金交付額	自己負担額	実支出額	補助金執行額 (流用含む)	自己負担額	交付決定に係る補助対 象経費の額	補助金交付額	自己負担額
広島市立大学	53,464,000	50,464,000	3,000,000	53,960,414	50,464,000	3,496,414	48,982,000	38,374,000	10,608,000
広島大学	753,000	753,000	0	761,076	761,076	0	750,000	750,000	0
尾道市立大学	750,000	750,000	0	750,381	750,000	381	750,000	750,000	0
広島経済大学	742,000	742,000	0	649,734	649,734	0	656,000	656,000	0
広島工業大学	750,000	750,000	0	750,600	750,000	600	750,000	750,000	0
広島国際大学	284,000	284,000	0	284,000	284,000	0	270,000	270,000	0
広島修道大学	503,000	503,000	0	517,538	503,000	14,538	750,000	750,000	0
安田女子大学	70,000	70,000	0	70,000	70,000	0	150,000	150,000	0
広島商船高等専門学校	750,000	750,000	0	750,000	750,000	0	750,000	750,000	0
合計	58,066,000	55,066,000	3,000,000	58,493,743	54,981,810	3,511,933	53,808,000	43,200,000	10,608,000

■資料-3 参加校による協働研究事業の実施結果（平成30年度・概要）

学校名	広島大学
事業名 (プロジェクト名)	コンテンツツーリズムを活用した地域活性化～呉市を中心に～
実施対象地域	市町名 呉市 (地区名 全域)
事業概要	<p>本事業の目的は、コンテンツツーリズムを切り口に、魅力ある地域づくりに貢献することである。本事業で対象としている呉市は、地域を舞台とする映画、大和ミュージアム、漫画家松本零士氏関連施設など、数多くのコンテンツを有している。</p> <p>呉市の有するコンテンツという観光資源を有効に活用するために、本事業では、学生が主体となって呉市内のコンテンツツーリズム関連施設を回るモニターツアーを体験・実施・企画する。まず、学生が地域を「知る」、地域の魅力に「気づく」ために、呉市のコンテンツツーリズム資源について調査を行い、コンテンツツーリズム周遊観光マップを作る。次に、マップに基づいて学生がモニターツアーを実施し、その様子をYoutubeなどにアップする(地域の新しいコンテンツとして発信する)。さらに、市役所との協働で、学生が作ったマップに基づいた一般参加者向けのモニターツアーを実施する。本事業を通して、「観光振興による地域創生に向けた人材育成」への貢献が期待される。</p>
事業の協働機関 (広島市立大学を除く)	呉市観光振興課、呉観光ボランティアの会
実施内容 (実績)	<ul style="list-style-type: none"> ・呉巡検(中止) 7月28日を予定していたが、台風12号の通過により中止 ・呉調査(海外研究者との共同調査、韓国外国語大学 Kim Sueun 氏) 7月30日～8月2日。呉の観光資源調査。 参考事例としてタイの海軍文化を活かす観光に関する資料翻訳 ・海軍文化を活かした観光の海外調査(韓国、9月6日～10日) 鳴梁海戦祭り調査。朝鮮時代の海戦を再現することを中心に、現代の海軍文化・地域の伝統文化を総合的に広報する地域祭り ・海軍文化を活かした観光の海外調査(台湾、9月14日～15日) 2018 保安堂神艦巡禮祭典。台湾で唯一に日本の戦艦が祀られている施設で行われる巡礼行事。周辺のパレード、仮装などが行われる。 ・コンテンツツーリズムを活かした産学連携に対する国内調査(南砺市、10月26日～10月29日) ・呉市の観光に関するアンケート調査(11月23日～25日) 広島大学の学生4人と大和ミュージアムで200人に対して呉での観光行動とコンテンツツーリズムについて調査

実施により 得られた成果	<p>・本事業の実施により以下のような効果が得られた。</p> <p>・地域：観光客へのアンケートを実施し、呉市観光の形態と特徴、今後の課題が得られた。具体的なアンケート結果は以下の通りである。 最も多かったのか40代で50人と全体の約4分の1を占めており、次いで20代が多かった。居住地で、アンケート調査を行ったのか3連休中であつたことも関係しているのか、9割近くが県外からの観光客たつた。半数以上が家族と訪れており、こちらも3連休中であることか関係していると思われる。約80%がツアー参加でないと答えている。旅行日程は2泊以上か最も多く約4割、次いで1泊、日帰りの順となつた。訪問回数は60%以上か初めてと答え、回数が増えるほど回答者数は少なかった。観光目的としては、「歴史や文化などを学びたい」「とてもそう思う」「そう思う」と答えた人は80%を超えており、主な目的としていることか分かる。「自然や景色を楽しみたい」「料理や特産品を楽しみたい」では「とてもそう思う」「そう思う」と答えた人が60%を超えたのに対し、「自然の中でスポーツや運動を楽しみたい」「ドラマや映画のロケ地を探访したい」には「そう思わない」「全くそう思わない」と答えた人が多かつた。</p> <p>・学生：学生は事業の参加により地域調査の基礎を学ぶことができた。アンケートの実施や分析、地域住民との信頼関係を形成する方法について学べた。 特筆事項として、学生の内一人が、本事業をテーマとする卒業論文を執筆した。</p>
実施経費	757,093円
実施・成果に係る 印刷物等	学生の観光研究・活動発表会2018記録集

担当教員	学部・職名・氏名	総合科学部・講師・張 慶在
事務担当者	所属・職名・氏名	社会産学連携グループ・主査・中田 伸明
	電話番号	082-424-5691
	Fax	082-424-6189
	e-mail	chiikirenkei@office.hiroshima-u.ac.jp

実施内容の写真



大和ミュージアム調査の様子



発表会 (2018年12月8日)



コンテンツを活かした地域振興 (2018年10月27日)



海軍文化を活かした台湾の祭り (2018年9月14日)



海軍文化を活かした韓国の祭り (2018年9月10日)



海軍文化を活かした韓国の祭り (2018年9月10日)

学校名	尾道市立大学
事業名 (プロジェクト名)	アートプロジェクトの実施
実施対象地域	市町名 尾道市
事業概要	広島市立大学 COC+の事業地域内で行うアートプロジェクトの一つとして、広島市立大学の学生が尾道の歴史や現状、地域特性についてのリサーチを重ね、作品を制作し、展示を行う。
事業の協働機関 (広島市立大学を除く)	AIR Onomichi、光明寺會館
実施内容 (実績)	<ul style="list-style-type: none"> ・事前レクチャー1回目(11月4日) 学生 14 人、引率教員 1 人 ガイダンス・光明寺會館見学 小野スライドレクチャー「空き家再生と美術活動」 尾道について 歴史的背景 空き家再生 活動手法 AIR 活動の背景と活動内容紹介 AIR サイト見学 シュシ・スライマンスタジオ見学 OAM(展示会場候補地で岩間賢が制作しているサイト)視察 ・環境整備(12月) 学生 3 人 展覧会準備 ・尾道プロジェクト「あんくろにくるニューしてい」展の開催 期間:3月9日(土)~3月17日(木)オープニング 3月8日(金) 場所:光明寺會館と尾道旧市街斜面地の空き家 広島市立大学の教員学生 22 のアーティストが参加し、尾道におけるリサーチの成果を作品展示という形で提示した。23 日のオープニングでは参加アーティストがギャラリートークを行い、尾道市立大学学生との交流も行った。本学教員も参加。
実施により 得られた成果	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の抱える課題に対する理解の促進 尾道旧市街斜面地の AIR Onomichi および空き家再生プロジェクトに関するレクチャーとサイト見学で広島市立大学の学生が尾道旧市街の歴史的背景と現在抱えている問題、それに対する取り組みについての理解を深めることができた。

実施により得られた成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現場作業の体験 参加学生がレクチャー・視察だけでなく、実際にアーティストの制作現場に触れる機会が持てたため、尾道旧市街斜面地独自の環境の持つ条件に対するより深い理解が得られた。また、その場の状況に対するアーティストのアプローチに触れることができた。 ・ 環境整備 展示準備に伴って、空き家周辺の導線を整え、それが荒廃していたエリアの環境整備につながった。参加学生にとって、広島とは全く異なる場所性に触れ、実際に活動することで、異なる場に触れる良い機会となった。 ・ 学生間交流の促進 特にオープニングのギャラリートークには広島市立大学関係の学生・教員および、尾道市立大学の学生教員なども集まったので、良い意見交換・交流機会となっていた。(約40名が参加) ・ 展示 本年度の交流を踏まえ、次年度は尾道市立大学学生も参加し、展示の企画立案を行う計画が立ち上がった。
実施経費	750,063 円
実施・成果に係る印刷物等	尾道プロジェクト「パンドラの匣庭」展フライヤー

担当教員	学部・職名・氏名	芸術文化学部美術学科・准教授・小野 環
事務担当者	所属・職名・氏名	企画広報室・主任・森下 育哉
	電話番号	0848-22-8311
	Fax	0848-22-5460
	e-mail	kikakukouhou@onomichi-u.ac.jp

実施内容の写真



山手視察とアーティストのスタジオ見学、意見交換



現場実測



展覧会準備、交流会



ギャラリートーク

学校名	広島経済大学
事業名 (プロジェクト名)	観光振興による「海の国際文化生活圏」創生に向けた人材育成事業 (学生による観光資源等の再発見と発信)
実施対象地域	①広島県廿日市市宮島町 ②広島県呉市下蒲刈町 ③瀬戸内海地域の戦跡地 広島市 呉市 廿日市市など
事業概要	①広島県廿日市市宮島町 宮島の魅力を発信したい学生プロジェクトによる事業 ・宮島の魅力を発信したい学生プロジェクトは、世界遺産である宮島の隠れた魅力を「学生目線」、「若者目線」で発掘し、それを発信することを活動目的としている。 ②広島県呉市下蒲刈町 若旅促進プロジェクトによる事業 ・朝鮮通信使の縁(ゆかり)の地や姉妹都市提携など、つながりが多い広島県と韓国との関係の中で、広島県内を訪れる韓国人旅行者が非常に少ない現状(全国第19位、観光庁訪日外国人消費動向調査2017年データより)を打破するために、両国の学生が協力して広島瀬戸内海地域の魅力を再発見すること、及び両国の若者を対象にした日韓交友のツアーを計画し、旅行業界に向け提案することを目的としている。 ③瀬戸内海地域の戦跡地 広島市 呉市 廿日市市など 竹林栄治ゼミによる事業 ・広島瀬戸内海地域に点在する戦跡地をマップにまとめ、ダークツーリズムの発信を行う。現地を訪れる外国人観光客への歴史や知識、文化の伝承を事業目的としている。
事業の協働機関 (広島市立大学を除く)	①NPO法人 宮島ネットワーク、宮島の磯・生きもの調査団 ②国土交通省中国運輸局、駐広島大韓民国総領事館、NPO法人 朝鮮通信使縁地連絡協議会、JTB 中国、韓国嶺南大学 ③広島電鉄
実施内容 (実績)	①広島県廿日市市宮島町 宮島の魅力を発信したい学生プロジェクトによる事業 ・NPO法人 宮島ネットワークと共催で宮島干潟イベントを企画し、13組の親子が集まり、宮島の磯・生きもの調査団の協力の下、アサリ掘体験やテングサを使用したトコロテンづくりの調理体験などを行った(8/11)。 ・『平清盛公生誕 900年祭』をテーマとした写真展をNPO法人 宮島ネットワークと共催し実施した(11/23~26,来場者1,514名)。 ・『宮島なび vol.1』『同 vol.2』の続編となる『同 vol.3』を発行(11月、1,300部発行900部配布済み)。 ・外国人向け英語版パンフレットを作成中(2月、2,000部発行) ②広島県呉市下蒲刈町 若旅促進プロジェクトによる事業 ・フラワーフェスティバル・パレードに韓国をはじめヨーロッパや東南アジアの留学生と参加(5/3) ・朝鮮通信使の足跡を辿るツアーを実施(8/9~13)。 ・韓国嶺南大学の学生を招聘し、蘭島文化財団主催の朝鮮通信使パレードに参加(10/21)。 ・企画したツアーの商品化を目指し、中国運輸局の他 JTB などの観光・旅行関係者を対象としプレゼンテーションを実施(3/12)。

	③瀬戸内海地域の戦跡地 広島市 呉市 廿日市市など 竹林栄治ゼミによる事業 ・「広島戦跡巡りガイドブック」の作成(10月)。 ・ガイドブックを活用した「広島域内外～原爆ドーム～被爆電車内～広島港」で戦跡ガイドツアーを実施した。戦跡ガイドについては日本語・英語・ドイツ語の3ヶ国語で実施(10/27)。
実施により 得られた成果	①宮島の魅力を発信したい学生プロジェクト(広島県廿日市市宮島町) 8月11日(土)、NPO法人 宮島ネットワークと共催で「宮島干潟イベント」を企画実施。観光資源調査を行うとともに、地元参加者からは「海の生き物に対する知識が深まった」「また参加したい」などの感想があり、次年度への弾みになった。 写真展は本学成風館にて、11月23日(金)~11月26日(月)の4日間実施。観光客の動員に向けて企画準備を行ったが、今年度来場者(1,514名)と昨年度(2,347名)を下回った。しかし、来場者に『平清盛公生誕 900年祭』の情報発信をするとともに、宮島の魅力を存分に伝えることに成功した。また、宮島の魅力を発信するツールとして、第3弾「宮島なび vol.3」と外国人観光客を対象とした「Look at me vol.2」の冊子を発行。特に外国人観光客には大変好評だった。 ②若旅促進プロジェクト(広島県呉市下蒲刈町および山口県熊毛郡上関町) 10月21日(日)韓国嶺南大学からの留学生と共に朝鮮通信使の再現行列に参加。加えて当日は松濤園などを拝観し、観光地としての魅力を日韓双方の視点で再確認することができた。年度末には、中国運輸局協力の下、旅行会社各社へのツアープラン(アウトバウンドツアー、インバウンドツアー)のプレゼンテーションを実施。ツアーの商品化に向けて、学生は参加者から貴重な意見を伺うことができた。 ③瀬戸内海地域の戦跡地調査(広島県呉市) 昨年度の現地調査を基に「広島戦跡巡りガイドブック」を作成した。 また、作成したガイドブックを活用し10月27日(土)に戦跡ガイドツアー「ダークツーリズム」(広島域内外～原爆ドーム～被爆電車内～広島港)を企画。広島電鉄の協力により被爆電車に乗り車内でのガイドのほか、戦跡地を廻り、日本語・英語・ドイツ語でガイドを実施した。また参加者は、戦前・戦中の軍事施設遺構を廻ることで平和に対する関心、戦争の悲惨さを知ることができた。携わった学生は戦争記憶の継承や平和学習のためにも保存の必要性を痛感した。
実施経費	660,211円
実施・成果に係る 印刷物等	①宮島の魅力を発信したい学生プロジェクト(広島県廿日市市宮島町) ・干潟教室(企画書、チラシ) ・写真展(企画書、チラシ) ・観光冊子(宮島なび vol.3、Look at me vol.2) ②若旅促進プロジェクト(広島県呉市下蒲刈町) ・観光・旅行関係者へのプレゼンテーション(企画書、報告書) ③瀬戸内海地域の戦跡地調査(広島県呉市) ・広島戦跡巡りガイドブック ・ダークツーリズム(広島戦跡ガイド企画書)

担当教員	学部・職名・氏名	経済学部 教授 濱田 敏彦(ハマダ トシヒコ) 経済学部 教授 川村 健一(カワムラ ケンイチ) 経済学部 准教授 竹林 栄治(タケバヤシ エイジ)
事務担当者	所属・職名・氏名	教育・学習支援センター・係長・野村 行宏(ノムラクキヒロ)
	電話番号	082-871-9345
	Fax	082-871-1021
	e-mail	yk-nomu@hue.ac.jp

実施内容の写真

①宮島の魅力を発信したい学生プロジェクト

(干潟教室)



(写真展)

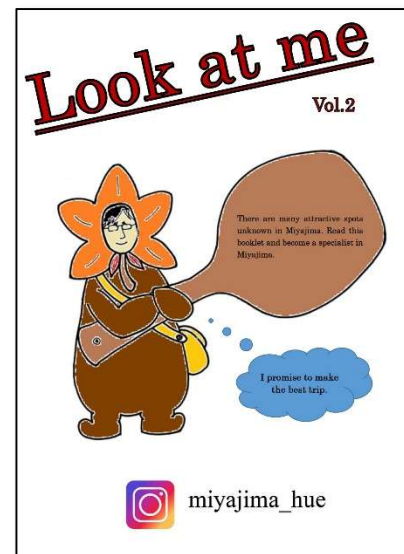


(宮島なび vol.3)



広島経済大学 興動館
宮島の魅力を発信したい学生プロジェクト

(英語版冊子 Look at me vol.2)



②若旅促進プロジェクト

(朝鮮通信使パレード)



(中国運輸局等へのプレゼン)



(ツアー企画パンフレット)



③竹林栄治ゼミ

(被爆電車ガイド)



(戦跡ガイド)



(広島戦跡巡りガイドブック)



(活動報告会)



学校名	広島工業大学
事業名 (プロジェクト名)	宮島・土曜講座
実施対象地域	廿日市市
事業概要	広島工業大学プロジェクト研究センター「地域保全まちづくり研究センター」の研究 成果の発信を核として、広島工業大学教員と外部講師により「まちづくり」に関連す る講座を展開する。月1回(6月～12月)の講座では、講師による「講話」と講師及 び参加者同士の「対話」を交えて、講座テーマの共有と理解を高めていく。
事業の協働機関 (広島市立大学を除く)	廿日市市
実施内容 (実績)	<p>○第1回:「東広島市福富町における再生古民家・星降るテラスとまちづくり」 6月23日(土)13:30～15:30(会場:宮島こもん) 23名参加</p> <p>○第2回:「地場産業を活かした観光まちづくり」 7月28日(土)18:00～20:00(会場:広島市立大学・サテライトハウス宮島) 9名参加</p> <p>○第3回:「ヨーロッパの島々が観光客で賑わうのは何故か」 8月25日(土)13:30～15:30(会場:広島市立大学・サテライトハウス宮島) 12名参加</p> <p>○第4回:「地域課題解決実習」成果報告会 9月22日(土)13:30～15:30(会場:宮島こもん)16名参加</p> <p>○第5回:観光客はどんな風景にぐっとくるのか ー離島の空間印象評価研究からー 10月27日(土)18:00～20:00(会場:宮島こもん)11名参加</p> <p>○第6回:「そぞろあるきマルシェによる宮島口まちづくりの取り組み」 11月24日(土)13:30～16:00(会場:宮島コーラルホテル)10名参加</p> <p>○大学連携による学生の観光に関する研究・活動発表会への参加 12月8(土)、9(日) 学生2組 6名発表</p> <p>○第7回:「大学・地域連携の系譜と現在(13:30～15:30)」 「宮島・土曜講座2018を振り返って(15:30～16:00)」 12月22日(土)13:30～16:00(会場:宮島市民センター)13名参加</p>

実施により 得られた成果	<p>講座参加者の感想(回答数40名)について「大変よかった」「よかった」と37名が回答しており、良い評価を得ることができた。講座参加者延べ140名のうち32名が学生の参加者であり、宮島や国内外のまちづくり事例について理解が深まった旨の感想を得た。また、廿日市市役所からも延べ21名の参加があり、地元自治体との連携を深める役割を担った。</p>	<p>講座の感想 (回答数40)</p> <table border="1"> <caption>講座の感想 (回答数40)</caption> <thead> <tr> <th>感想</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大変よかった</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td>よかった</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>ふつう</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>あまりよくなかった</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table>	感想	人数	大変よかった	24	よかった	13	ふつう	1	あまりよくなかった	2
	感想	人数										
大変よかった	24											
よかった	13											
ふつう	1											
あまりよくなかった	2											
<p>関連行事として実施した「オープンこもん」(7～12月の月1回)では参加者のべ78名中47名の学生の参加があり、「卒業研究」や「地域課題解決実習」に関する情報提供などを行い、卒業論文5件、実習報告2件の成果につながる支援を行うことができた。</p>												

実施経費	750,600円
実施・成果に係る 印刷物等	①「宮島・土曜講座2018」チラシ ②「宮島・土曜講座2018」報告書

担当教員	学部・職名・氏名	工学部・教授・伊藤 雅
事務担当者	所属・職名・氏名	地域連携推進室・サブリーダー・佐藤 隆
	電話番号	082-921-4222
	Fax	082-921-8963
	e-mail	c-renkei@it-hiroshima.ac.jp

実施内容の写真

○第1回:「東広島市福富町における再生古民家・星降るテラスとまちづくり」



○第2回:「地場産業を活かした観光まちづくり」



○第3回:「ヨーロッパの島々が観光客で賑わうのは何故か」



○第4回:「地域課題解決実習」成果報告会



○第5回:「観光客はどんな風景にぐっとくるのかー離島の空間印象評価研究からー」



○第6回:「そぞろあるきマルシェによる宮島口まちづくりの取り組み」



○大学連携による学生の観光に関する研究・活動発表会への参加



第7回:「大学・地域連携の系譜と現在(13:30~15:30)」

「宮島・土曜講座 2018 を振り返って(15:30~16:00)」



学校名	広島国際大学
事業名 (プロジェクト名)	中山間地域と島しょ部間の交流による地域活性化プロジェクト
実施対象地域	山県郡安芸太田町四合地区、呉市豊島地区ならびに東広島市黒瀬地区
事業概要	四合地区、豊島地区は三段峡や島しょ部で観光地として高まりを見せているが、実は高齢化率が非常に高い。これらの地域の住民の“健康づくり”を促進すると共に二つの地区の交流を図ることにより、相乗的な活性化効果をもたらすことを目的とする。また、二つの地区に関する情報発信に益することを目的に既にサロンを実施している東広島市黒瀬町丸山地区との交流も取り入れる。
事業の協働機関 (広島市立大学を除く)	安芸太田町・町社協、呉市豊浜市民センター、東広島市社協ならびに黒瀬支所
実施内容 (実績)	<p>＜安芸太田町三合地区での事業実施内容＞</p> <ol style="list-style-type: none"> 平成30年5月19日、第9回三和サロンを開催。3つの自治会から20名、社協1名、集落支援員1名、児童1名、本学教員1名、学生3名で開催。自宅で自主的にセロファンの貼り付けをくださった約20枚をチェックしながら、残りの30枚ほどの貼り付けに取り掛かっていただく。11月10日の3地区合同イベントでの上映を再確認することで、一層、熱が入り始めた方も居られるが、プレッシャーで精神的に疲れを感じておられる方も出てきたように思われる。 平成30年6月30日、第10回三和サロンを開催。3つの自治会から18名、社協1名、集落支援員1名、児童2名、本学教員1名で開催。3地区合同イベントでの上映を見据え、未完成の切り絵へのセロファンの貼り付け作業に取り組む。今回までに形を見た影絵(50枚)の補正と不足分の制作は大学で行うこと、次回(9月末)に影絵の試写を行うこと、合同イベントについての最終打ち合わせを確認。 平成30年9月22日、第11回三和サロンを開催。3つの自治会から25名、社協1名、集落支援員1名、児童1名、本学教員1名で開催。11月の本番に向けてデータ化した影絵の試写を行った。また、合同イベント当日、当初は学生が「龍神とたたら」のシナリオを読む予定にしていたが、シナリオを地区の皆さんに分担して読んで頂けないかお願いする。ボランティアでの読み手を募り、それに合わせてシナリオを分割し、事前に読み合わせをしていただくこととする。 平成31年3月23日、第12回三和サロンを開催。3つの自治会から18名、社協2名、集落支援員1名、児童1名、本学教員1名、安芸太田町紙芝居サークル1名 影絵「龍神とたたら」のことを中国新聞で見られた紙芝居サークルから田中自治会長宛に「紙芝居としても残していきたいと考えている」とのことで連絡が入り、シ

実施内容 (実績)	<p>ナリオならびに影絵の原版を見せていただきたいとの要請があったとのこと。上映を行うとともに、サロン参加者の全員の合意のもとにシナリオと影絵の原版を預け、基本的にはこれに沿って作成していただくことでお願いする。 また、次年度、影絵に代わるものに取り組むこととなり、安芸太田町のことを読み込んだ“かるた”制作に取り組むこととなった。また、次年度、影絵に代わるものに取り組むこととなり、安芸太田町のことを読み込んだ“かるた”制作に取り組むこととなった。</p> <p>＜黒瀬町丸山地区でのサロン＞</p> <p>平成30年度は豪雨災害の影響もあり、隔月1度程度、地域住民の参加は平均13名、学生は平均6名、本学教員1名、社協2名の参加のもとにサロンを開催した。 実施日と内容は以下の通りであった。</p> <ol style="list-style-type: none"> 平成30年4月7日、丸〇サロンとしての筍掘りを真野本神社の裏山で、またその後同神社境内で花見と昼食会を実施。(地域住民13名、学生8名、本学教員1名、社協2名) 平成30年5月26日、丸山地区子ども会との合同田植え実施。その後、翌週のホタル祭り開催場所でのロープ張り、夜光灯等の設置を手伝った。(地域住民12名、学生9名、本学教員1名、社協2名) 6月1日の丸山地区ホタル祭り当日はヨーヨー釣り、輪投げ、ストラックアウトの景品の準備と実施を学生が担当した。(地域住民12名、学生12名、本学教員1名、社協2名) 平成30年9月17日、丸山地区敬老会開催の手伝いを行った。(学生2名、社協2名) 平成30年12月1日、丸〇サロンとしての餅つき会と親睦会を真野本神社にて開催。(地域住民12名、学生9名、本学教員1名、社協2名) 平成31年2月9日、11月開催予定の第3回合同サロンについての話し合いを持ち、開催日を11月9日(土)と決定し、内容についての意見交換を行った。その後、ご当地かるた等を行い親睦を図った。(地域住民11名、学生3名、本学教員1名、社協2名) 平成31年3月30日、丸〇サロンとしての筍掘りを真野本神社の裏山で、またその後、同神社境内で花見と昼食会を実施。(地域住民12名、学生2名、本学教員1名、社協2名) <p>＜安芸太田町での第2回3地区合同イベントの開催＞</p> <p>平成30年11月10日、安芸太田町総合福祉センターにて安芸太田町三合地区、黒瀬丸山地区、豊島地区の3地区合同イベントを開催。安芸太田町三合地区25名、豊島地区20名、黒瀬丸山地区15名、学生・OB 11名、本学教員1名、社協6名、安芸太田町職員2名の参加があった。10:00に戸河内C前の道の駅で合流後、深入山にて紅葉狩り。その間、それぞれから持ち込んだ食材や柑橘類を使い、学生と地元の方とでジエカレー、鮎の塩焼き、サラダなどを作る。その後、昼食をとりながら親睦を図り、認知症予防のゲームを行った。また、三合地区に伝わる話を後世に残したいという地区の皆さんの希望のもと平成29年7月から三合地区の皆さんが制作に取り組んだ影絵(全74枚)の上映を行った。</p>
--------------	---

	<p>極力お金を使わずに、自宅で採れるもの等を持ち寄ってお迎えするという昨年度からのイベント趣旨のもと、交流会に参加された方たちはもとより協力学生には非常に好評であった。</p> <p>尚、合同サロンは第3回をもって持ち回り開催は一巡することとなる。呉市豊浜地区の皆さんからは引き続きの開催要望が出ているとのことであり、引き続き開催するかどうかについて検討も行っていくこととする。</p>
実施により得られた成果	<p>量的な調査を行っていないため、事業実施による住民・学生双方に対する成果を具体的な数値で示すことはできないが、以下のような成果を上げたと考えられる。</p> <p>地域住民からの要望を受けて“健康”相談会を実施したり、筋力体操・認知症予防訓練を通しての学生との交流を通じて、少なからず地域住民の“精神的”健康の促進ならびに学生に・住民双方にとっての存在価値の再確認の効果があつたものと考えられる。また、地域に伝わる伝承を影絵などで残し、集落がなくなっても語り継いで行ってもいいという要望を具現化するため、伝承されている内容をふまえたシナリオをつくり、それを基に影絵の制作に取り組んだ。</p> <p>11月開催の合同イベントまでに影絵を完成させた。当初は学生によってシナリオを読み上げることを願っておられたが、折角なので、分担して読み上げられることを提案し、イベント開催時には多くのサロンメンバーがシナリオを分担して読み上げられ、緊張をしながらも一体感を得ることが出来たようであった。また、三和地区の取り組みを見て次回開催地の黒瀬丸山地区の方たちはプレッシャーを、逆に呉市豊島地区の皆さんは「あの影絵は良かった。何か豊島でもみんなで取り組める何かを企画して、発表できるように取り組もう」と、“他”の自治体住民との交流を非常に楽しみにされているとのことである。</p> <p>このように、これらのことを鑑みると、数字には表れてはいないものの、本事業実施により住民・学生の双方にとってWHOの言う“健康”を促す効果が見られていると考える。</p>
実施経費	270,000 円
実施・成果に係る印刷物等	<p>1.龍神とたたら</p> <p>2.広島国際大学がつなぐ『3 町合同サロン』予定表</p> <p>3.中国新聞掲載記事</p>

担当教員	学部・職名・氏名	研究支援・社会連携センター 教授 吉川 眞
事務担当者	所属・職名・氏名	研究支援・社会連携センター 犬童 秀一
	電話番号	0823-69-6034
	Fax	0823-70-4931
	e-mail	INUDO.Shuichi@joshu.ac.jp

実施内容の写真



H30.9.22 安芸太田町三和地区サロン
合同サロンに向けた試写会とシナリオ
の読み合わせ会



H30.5.26 黒瀬丸山地区子ども会との
合同田植え



H30.11.13 の中国新聞に掲載された 3 地区合
同イベント関連記事



H30.12.1 黒瀬丸山地区での餅つき並びに
ご苦労さん会

学校名	広島修道大学
事業名 (プロジェクト名)	観光振興による「海の国際文化生活圏」創生に向けた人材育成事業 もとまちカフェ 及び 地域と連携した教育
実施対象地域	市町名 広島市、北広島町、廿日市市 (地区名 中区基町、大朝、四和)
事業概要	<p>【もとまちカフェ】 基町高層アパートの活性化を目指す「基町プロジェクト」のなかで、「もとまちカフェ」(広島市立大学と共同主催)は基町高層アパート本来のあり方や魅力を体験し知ってもらうこと、住人やコミュニティ(内の人)と基町への来訪者(外の人)をつなぐ架け橋となることを目的に行っている。 今年度はもとまちカフェまた基町高層アパートの魅力を外の方へ発信することに重点を置き、中央公民館での「うたごえ喫茶」にて出張カフェと企画案展示、基町ショッピングセンターの人工地盤の上で手作りのランプシェードを使って「ひかりのカフェ」を行った。現在もいくつかの出張カフェを計画中である。</p> <p>【地域と連携した教育】 PBL型授業である「ひろしま未来協創プロジェクト」の授業において、廿日市市(6回)と北広島町(5回)へはバスで出向き、地域の方と話し合い、地域課題・地域資源に着目し、それらの解決・価値化のための企画手法について学習した。廿日市市栗栖地域では学生が地域活動を続ける基盤ができ、北広島町では実証実験の結果を地域が引き取り継続するとの声があった。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div> <p style="text-align: center;">「うたごえ喫茶」 「ひかりカフェ」 「ひろしま未来協創プロジェクト」</p>
事業の協働機関 (広島市立大学を除く)	広島市中区役所 廿日市市
実施内容 (実績)	<p>【もとまちカフェ】 4月～11月 実施に向けて定例会(週1回) 8月25日(土)14:00～16:00 「小さな音楽館」におけるもとまちカフェの実施 11月25日(土)16:00～18:00 「ひかりカフェ」実施</p> <p>【地域と連携した教育】 5/13, 6/30, 10/6, 11/17, 12/15:北広島町大朝地域にて実施 5/20,6/9, 8/4, 10/27,11/10, 12/1:廿日市市佐伯地域にて実施</p>

実施により 得られた成果	<p>【もとまちカフェ】 今年度の目標は、「基町の内の人と外の人をつなぐ」という全体コンセプトのもと、外の人をもっと基町に来る機会を増やそうと広島市立大学の学生と広島修道大学の学生が共同で幾つかのチームに分かれて企画を練って実施した。 ・「小さな音楽館」におけるもとまちカフェの実施 日時:2018年8月25日 場所:広島市中央公民館(広島市中区西白島町) 「もとまちカフェ」を広く知ってもらうために、8月25日、広島市中央公民館にて「小さな音楽館」におけるもとまちカフェを開催し、「もとまちハプティブアイス」を無料提供した。 ・「ひかりカフェ」実施 日時:2018年11月25日(土)16:00～18:00 場所:もとまち自遊ひろば ランプを階段や藤棚に設置し、来場者に屋台を使い、飲み物を提供した。</p> <p>【地域と連携した教育】 《廿日市市佐伯地域》 「ひろしま未来協創プロジェクト(中山間地域のイノベーション)」を受講している学生32名が、広島県廿日市市飯山を対象に、持続的に地域を活性化する方法を考察した。フィールドワークを2回行っており、住民にニーズを聞きながら課題を見つけ、グループごとにさまざまなことを発案している。活動は①記録班 ②ごはん班 ③神社清掃班 ④神社記録班 ⑤AED班の5グループで行った。 《北広島町大朝地域》 「ひろしま未来協創プロジェクト(過疎地域のコミュニケーション)」を受講している学生15名が、北広島町大朝で学生が寄与できる地域貢献について議論と体験調査を行った。実際に現地のアクティビティであるレンタルサイクルを借りて現在検討されているコースを回らせていただいたり、地域の農家を訪問させていただき学生が体験できる農作業などの洗い出しを行ったりした。それらを総合的に組み合わせて都心部の若者(特に大学生)が訪れみたいと思う地域になるように、若者向けの大朝体験コースを設定した。</p>
	実施経費
実施・成果に係る 印刷物等	なし

担当教員	学部・職名・氏名	地域イノベーション教育担当教員/人間環境学部 講師 木原一郎
事務担当者	所属・職名・氏名	ひろしま未来協創センター 課長 佐伯美栄子
	電話番号	082-830-1114
	Fax	082-830-1932
	e-mail	m-saeki@js.shudo-u.ac.jp

実施内容の写真



2018年8月25日「小さな音楽館」におけるもとまちカフェの実施



2018年11月25日(土)
「ひかりカフェ」実施



廿日市市佐伯地域 6/9 実習の様子



8/9 実習の様子



北広島町での授業の様子

学校名	安田女子大学
事業名 (プロジェクト名)	「グローバルキッチンプロジェクト」「筏津プロジェクト」への参画
実施対象地域	①市町名 広島市 (地区名 中区基町地区) ②市町名 北広島町 (地区名 筏津地区)
事業概要	<p>アートプロジェクトへの参画</p> <p>①広島市基町「ニューコミュニティ」 基町プロジェクト:「グローバルキッチンプロジェクト(基町クッキング)」 空き店舗を改修した活動スペース「M98<eat>」において「食」関連のイベントを実施し、コミュニティの活性化や住民交流、健康促進の場をつくることを目的とする。本学は 2016 年度から参画しており、今年度も家政学部管理栄養学科の教員・学生が料理試食会を実施。健康をテーマに、減塩かつ食欲増進となる献立を考え、調理や栄養に関するレクチャーを行う。</p> <p>②北広島町「ニューライフ」 筏津プロジェクト:「筏津クッキング」 北広島町の筏津芸術村を中心に広島市立大学が取り組んでいる「筏津プロジェクト」の一環として参画。地域運動会の昼食会において、住民の方々を対象とした「筏津クッキング」を開催する。 今年度からの新たな取り組みとして、グローバルキッチンプロジェクト同様、家政学部管理栄養学科の教員・学生が実施。 調理や栄養に関するレクチャーだけではなく、地域行事にも積極的に参加し、住民との交流を図っていく。学生自らが地域の魅力を発見し、課題に対して主体的に行動する力を養うことも目的とする。</p>
事業の協働機関 (広島市立大学を除く)	
実施内容 (実績)	<p>①基町プロジェクト:「グローバルキッチンプロジェクト(基町クッキング)」 5月:広島市立大学と今年度のプロジェクト実施に向けての打ち合わせ 6月:実施に向けての準備(~10月) 9月:学内実習室で試作 10月:「グローバルキッチンプロジェクト(基町クッキング)」実施 (10月13日(土)) テーマ…「バランスよく 食欲増進ごはん」 メニュー…中華丼・生春巻き・減塩味噌汁・牛乳プリン 指導教員…家政学部管理栄養学科 渡邊喜弘准教授 学 生…家政学部管理栄養学科 14名 参加者…25名 10月:活動の振り返り</p>

実施内容 (実績)	<p>②筏津プロジェクト:「筏津クッキング」 5月:広島市立大学と今年度のプロジェクト実施に向けての打ち合わせ 6月:実施に向けての準備(~9月) 9月:学内実習室で試作 9月:「筏津クッキング」実施(9月2日(日)) テーマ…「バランスよく 食欲増進ごはん」 メニュー…肉団子の甘酢あん・生春巻き・マカロニサラダ・牛乳プリン 指導教員…家政学部管理栄養学科 渡邊喜弘准教授 学 生…家政学部管理栄養学科 12名 参加者…約80名 9月:活動の振り返り</p>
実施により 得られた成果	<p>管理栄養学科を擁する大学としての強みを生かした地域との連携を通して、住民交流の場、健康促進の場を創出することができた。</p> <p>■地域に対しての効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低栄養に関する勉強会では、高齢者に起こる身体の変化について、学生たちの説明が参加者に、自身の実感として伝わったことで、あらためて食の大切さを認識してもらうことができた。また、栄養に関する正しい知識を修得し、低栄養についての予防意識も高めてもらう機会となった。(①基町) ・学生の大学での学びを広く地域に還元することができた。今後、栄養と関連する病気や美容についてもレクチャーしてほしいとの希望があった。地域の方々と直接交流することによって、具体的なニーズを捉えることができた。(②筏津) <p>■学生に対しての効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者との会話を通して、栄養が気になりながらも、調理が困難で既製品を購入することが多く、選び方も好きなものに偏ってしまう傾向にあるという実態を知った。交流によって、管理栄養士に求められる役割を再認識する良い機会となった。(①基町) ・管理栄養士はさまざまな年代の人を対象に指導等を行うため、今回のイベントで子どもから高齢者まで幅広い年代の方々と接し、それぞれに合わせた会話ができることは非常に有益であった。コミュニケーションに苦手意識を持っていた学生も本交流をきっかけに苦手意識が薄れ、自信につながったと話している。(②筏津) ・長い年月を経て身についた食習慣はすぐに変えられるものではなく、アドバイスや指導もマニュアル通りにはいかないことを実感した。同時に、食の大切さや正しい知識を伝えていきたいという思いがさらに強くなり、モチベーションの向上につながった。(①基町、②筏津)
実施経費	119,580円
実施・成果に係る 印刷物等	<p>■実施に係る印刷物等</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.パンフレット(①基町、②筏津) 2.アンケート(①基町、②筏津) <p>■成果に係る印刷物等</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.アンケート結果(①基町、②筏津)

担当教員	学部・職名・氏名	家政学部管理栄養学科・准教授・渡邊 喜弘
事務担当者	所属・職名・氏名	企画部企画課・課長・脇田 好章
	電話番号	082-878-9980
	Fax	082-878-8408
	e-mail	kikaku.box@yasuda-u.ac.jp

実施内容の写真

■2018年9月1日(土):学内実習室での試作



■2018年9月2日(日):「筏津クッキング」



■2018年9月22日(土):学内実習室での試作



■2018年10月13日(土):「グローバルキッチンプロジェクト(基町クッキング)」



学校名	広島商船高等専門学校
事業名 (プロジェクト名)	高齢者健康調査(企画名:お達者自慢)
実施対象地域	市町名 大崎上島町 (地区名 大崎上島)
事業概要	広島商船高等専門学校の教育, 研究, 地域貢献活動の一環として, 地域社会が抱える課題解決と地域コミュニティの担い手となる人材の育成を目指して, 大崎上島町住民健康調査を実施した。
事業の協働機関 (広島市立大学を除く)	大崎上島町 総務企画課, 広島大学
実施内容 (実績)	<p>・開催日時, 場所 平成31年3月9日(土), 広島商船高等専門学校第二体育館</p> <p>・参加者数 約20名</p> <p>・実施内容 大崎上島町住民の健康調査を行い, 健康促進・留意点について生活指導を行った。 実施内容は次の6項目である。</p> <p>(1)骨密度 (2)骨体操 (3)歩行テスト (4)身長, 体重, 上肢握力などの体力調査 (5)社交ダンスによるスポーツ交流 (6)スマートフォン使用方法相談</p>
実施により 得られた成果	<p>大崎上島町, 広島大学と連携して健康増進プログラムを実施し, 大学や高専・自治体・地域住民が相互に連携して継続的に一体となって課題解決に取り組む意識を共有でき, 協力体制の構築が可能となった。</p> <p>参加した学生は, 高齢者を中心とした住民の健康実態調査・意識調査を行う人材育成プログラムの計画・実施により, 地域住民が抱える課題探究を図るだけでなく, 社交ダンスによるスポーツ交流などの活動を通して日々の教育活動への動機づけになる成功体験や, コミュニケーションの大切さに気付き, 専門性を生かした地域貢献への意識が向上するなどの成果があった。</p>
実施経費	750,000 円

実施・成果に係る 印刷物等	ポスター
------------------	------

担当教員	学部・職名・氏名	電子制御工学科・教授・吉田 哲哉
事務担当者	所属・職名・氏名	総務課企画広報室・室長・増本 浩司
	電話番号	0846-67-3179
	Fax	0846-67-3009
	e-mail	koho@hiroshima-cmt.ac.jp

実施内容の写真



社交ダンスによるスポーツ交流



健康調査の様子①



健康調査の様子②

■資料－4 外部評価結果（平成30年度事業に対する評価）

I 評価の方法と結果

1 取組に対する個別評価

文部科学省に提出したCOC+事業実施計画に基づき、4つの取組の16の事項について広島市立大学が自己評価を行い、その上で外部評価委員が4つの取組について個別評価を行う。

評価は、いずれも以下の5段階で行う。

ア 広島市立大学の自己評価

「s」計画を大きく上回った実績である。

「a」計画を上回った実績である。

「b」計画に沿った実績である。

「c」計画を下回った実績である。

「d」計画を大きく下回った実績である。

イ 外部評価委員の評価

「S」=5点 計画を大きく上回った実績である。

「A」=4点 計画を上回った実績である。

「B」=3点 計画に沿った実績である。

「C」=2点 計画を下回った実績である。

「D」=1点 計画を大きく下回った実績である。

2 総合評価の方法

ア（取組項目ごとの評価）

各委員による1～4の取組項目ごとの評価の点数(5～1)を一覧表にする(表1)。

表1の個別評価点と平均値を基に、項目ごとに意見の交換を行い(必要に応じて当局へ実施内容を確認)、委員会としての取組項目の評価点を決定する。

イ（総合評価点の集計）

取組項目ごとの評価点を、表2の評価比率に応じて加重平均(評点×評価比率の合計)した結果を集計する(表3)。

ウ（総合評価の決定）

イの集計結果もとに、委員会としての総合評価について意見の交換により最終的な確認を行い、表4の評価基準にあてはめて総合評価の記号とする。

エ（総評の作成）

広島市立大学の自己評価の総括を踏まえ、意見の交換を行い、その内容を集約して外部評価委員会の総評とする。

表1(取組項目ごとの評価)

取組項目	委員の個別評価点と平均値		委員会としての評価点
	個別評価点	平均値	
1 教育カリキュラムの整備推進	4	4.2	4.2
	4		
	4		
	4		
	5		
2 観光データベースの構築と活用	3	3.2	3.2
	3		
	3		
	3		
	4		
3 観光振興を目的とした 教育研究事業の立案・推進	4	4.4	4.4
	4		
	5		
	4		
	4		
4 事業運営(実施体制の整備)	4	3.8	3.8
	3		
	3		
	4		
	5		

表2(評価比率)

取組項目	評価比率
1 教育カリキュラムの整備推進	35%
2 観光データベースの構築と活用	20%
3 観光振興を目的とした教育研究事業の立案・推進	35%
4 事業運営(実施体制の整備)	10%

表3(集計結果)

取組項目	評点(α) 委員会としての評 価点	評価比率 (β)	$\alpha \times \beta$
1 教育カリキュラムの整備推進	4.2	35%	1.47
2 観光データベースの構築と活用	3.2	20%	0.64
3 観光振興を目的とした 教育研究事業の立案・推進	4.4	35%	1.54
4 事業運営(実施体制の整備)	3.8	10%	0.38
計			X 4.03

表4(総合評価の基準)

評価の基準値	総合評価の記号	
4.5 < X	S	計画を大きく上回った実績を挙げている。
3.5 < X ≤ 4.5	A	計画を上回った実績を挙げている。
2.5 < X ≤ 3.5	B	計画に沿った実績となっている。
1.5 < X ≤ 2.5	C	計画を下回った実績となっている。
X ≤ 1.5	D	計画を大きく下回った実績となっている。

II 総合評価及び総評

評価の記号

A: 計画を上回った実績を挙げている。

総評

本COC+事業は、広島広域都市圏及び尾道市の課題である人口流出を、観光資源の活用により改善することを目指し、「地域に愛着・誇りを持ち、地域に根付き、地域の発展に貢献する人材」を育成することを目的とし、平成27年(2015年)9月に文部科学省の採択を受け、令和元年度(2019年度)までを事業期間として進めている。

初年度の平成27年度は事業の実施体制を整え、平成28年度の本格的な展開を経て、平成29年度と平成30年度は事業の安定的な実施と改善に取り組んだ。

この平成30年度事業の自己評価について、文部科学省に提出している「平成30年度大学改革推進等補助金調書」に記載した事業実施計画の4つの取組項目の実績に基づき、以下のとおり主な取り組み状況を確認し評価する。

1 教育カリキュラムの整備・推進

地域志向教育カリキュラムである地域貢献特定プログラムの全23科目を実施し、延べ1,376人の受講があった。このうち全学共通系科目では「地域再生論入門」の履修者が大幅に増えるなど「広島を知る」科目の履修が増加した。新たに「地域実践演習」を開講し、専門教育科目として地域課題に34人が取り組んだ。アンケートを実施した科目では、受講後の地域への関心度が高い割合で向上したことが確認できた。地域貢献特定プログラムの実施が3年を経過し、初めてのプログラム修得者35人を認定した。

参加校間の単位互換科目を増やし、前年度を上回る7校から出願があった。

全教職員を対象にしたFD・SD研修を2回実施し、特に公立大学の地域教育の先進的な取り組みとして高知県立大学の実践に学んだ。

キャリア教育科目の見直しを行い、1年次からのキャリア形成について大学生活の目標設定、振り返り等を定期的に行うキャリアデザインシートの導入や、低学年次のインターンシップを推奨・強化するなど、キャリア形成支援体制を整え、2019年度からの実施に備えた。参加企業・自治体へのインターンシップについては、前年度と同程度の実績となった。

寄付講座として、「マツダ・広島市立大学芸術学部共創ゼミ」の2年目を実施し、学生11人が履修した。

以上、本COC+事業の中核となる地域貢献特定プログラムを充実した内容で実施し、キャリア教育の見直しも行った。地域志向教育や学生の成長を促すキャリア形成支援など、事業期間終了後につながる教育カリキュラムの拡充を行ったことから、本項目については計画を上回って実施したと評価する。

2 観光関連データベースの構築

平成 30 年度末までに約 60 万件という膨大なコンテンツ数の登録を完了し、「地域課題演習」や「観光情報学」での演習素材として活用を行った。利用規定やマニュアルを作成し、事業協働機関への閲覧を開始した。

また、データの収集にも取り組み、事業協働機関であるしまなみジャパンとの協働により、観光サイクリストの行動情報の調査事業を行い、地域観光の振興の一助とした。

以上のことから、本項目については概ね計画に沿って実施したと評価する。

3 観光振興を目的とした教育研究事業の立案・推進

学生による芸術作品の制作・展示により観光振興や活性化を行うアートプロジェクト「広島ニュートラベル」を、参加校や自治体と協働して実施した。実施地域を前年度の 5 地域から 6 地域に拡大して 10 件のプロジェクトを展開し、前年度を 1,000 人以上上回る 4,463 人の来場者があった。特に広島市での基町プロジェクトでは、空き店舗を改修した4つのスペースを活用した展示や交流活動を進めるとともに、新たなスペースの開設準備を行った。

廿日市市宮島の町家を活用した「サテライトハウス宮島」において、アートプロジェクトの制作や展示、地域実践演習、市民向け講座開催などを実施した。

参加校による協働研究事業を進め、8 校において観光に関する調査、地域講座の開催、地域活性化や地域支援に関する活動を実施した。また、前年度に引き続いて参加校 6 大学と比治山大学が協働して、観光に関する学生の研究・活動発表会を宮島において開催し、大学間の交流を深め、観光に関する教育研究の向上を図った。

学内の研究資金COC+研究枠や社会貢献プロジェクトにより、教員の地域研究の促進や社会貢献活動への支援を行った。

高校生の地域内進学を促進するサテライト講座を、引き続き柳井市において開講した。

以上、教育研究事業の全般にわたって安定した実施内容になっており、地域に設けた拠点施設（基町、宮島）でのプロジェクトや教育活動、参加校との協働事業も連携を深めながら着実に実施した。特にアートプロジェクトについて、実施地域を拡充して積極的に展開したことにより、来場者の増加を実現できた。これらのことから、本項目については計画を上回って実施したと評価する。

4 事業運営(実施体制の整備等)

「COC+フォーラム 2018」を長崎大学と共催し、観光情報学会との協働により開催した。観光情報に関する最新の動向を内容とし、観光事業者を中心とした参加者の満足度が高かった。

事業協働協議会の会議において、学生がアートプロジェクトや「地域課題演習」の活動成果を発表し、事業の推進状況への理解を高めた。

担当する教員について、事業協働地域調整担当、教育研究担当など 6 教員による推進体制を継続した。

専用ホームページによる情報発信、ニュースレターの発行なども適宜行った。

以上、安定した事業運営を行うとともに、COC+フォーラムを、同じくCOC+大学である長崎大学と共催し、大学間連携により地域の観光関係者のニーズに応える内容を提供したことから、本項目については計画を上回って実施したと評価する。

5 まとめ

以上のとおり、本事業の平成 30 年度の取り組みは、各事業項目を安定的、発展的に実施するとともに、事業の最終年度を翌年に控えて、将来的な継続性を意識した内容となっている。特に、事業の重要な柱である「教育カリキュラムの整備・推進」において、地域貢献特定プログラムに一定の成果を上げるとともに、キャリア教育の見直しに着手したことは、本COC+事業の目的である地域に貢献する人材の育成に向けた着実な前進と、事業期間終了後の継続への基礎固めが行えたものと評価する。

その上で、令和元年度はこの事業の最終年度となることから、事業期間終了後に向けた検討に当たっては、継続性や発展性の観点から、次の点に留意して取り組むことが望まれる。

- (1) 広島市のまちづくり(観光、水の都、基町や都心部の再生など)に学生が関わり、学習する機会を設ける。
- (2) 「地域課題演習」などに女子学生の積極的な履修が見られ、女性の意欲を活かし、就業も含めた地域社会への参画を後押しする教育姿勢が必要である。
- (3) アートプロジェクトは成果が出ており、こうした取組を継続するとともに、今後は芸術活動を具体的な収益や就業に結びつけていく教育も必要である。
- (4) 廿日市市宮島や広島市基町での実践的な学習を継続するとともに、特に、基町プロジェクトで行ってきた空き店舗の活用やギャラリーでの活動の存続が望まれる。
- (5) 地域の大学で育てた人材が地元に着住するよう、地元就職する割合を増やすことが、改めて重要である。

以上

	④	【インターンシップの実施】 8月～2月 COC+参加企業・自治体へのインターンシップを引き続き実施。さらに新たに中国経済連合会と協力し、参加校と連携して低学年向けインターンシップを実施	b	<p>事業協働機関へインターンシップの受入れを働きかけ、COC+校における平成30年度の参加学生数は前年度58人と同程度の59人となった。(広島地方の豪雨災害のボランティア活動に夏季のインターンシップを振り替えた学生がいたため。)</p> <p>平成28年度から事業協働機関である中国経済連合会の人材育成専門部会において、企業関係者と地元企業におけるインターンシップを活用した学生の地元定着意識の醸成を図る方策を検討し、平成29年度にその具体化として、企業経営者と学生が懇談を通じて働く意義を考える事業を開始した。平成30年度はこの事業に51人の学生・教職員の参加があった。</p> <p>インターンシップの参加学生数が前年度と同程度の数を維持したことなどから、「b」と評価した。</p>	
	⑤	【キャリア教育科目の見直し検討等】 4月～12月 本学のキャリア教育科目の見直しを検討するとともに、経営者を招き、学生と意見交換する会の実施	a	<p>COC+校において、学生の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育てるためのキャリア教育の見直しを行った。1年次からキャリア形成について意識する機会を設定するため、新たな取り組みとして、大学生生活の目標設定、振り返り等を定期的に行うキャリアデザインシートを導入し、学生ハンドブックに記述させることとした。こうした見直しを含めて、低学年次のインターンシップを推奨・強化するキャリア形成支援体制を整え、2019年度からの実施に備えた。</p> <p>COC+校で実施した「地元企業経営者パネル討論会」に70人の学生・教職員が参加し、学生と企業経営者との活発な意見交換があり、地域での企業経営の意義と課題について理解を深めた。</p> <p>キャリア教育科目の見直しを行い低学年のインターンシップの強化に取り組んだことから、「a」と評価した。</p>	
	⑥	【寄付講座の実施】 4月～3月 平成29年度に引き続き寄付講座の実施	a	<p>広島が世界に誇れるモノづくりの拠点となる人材育成を目指し、「マツダ・広島市立大学芸術学部共創ゼミ」を平成29年度に開講した。芸術学部を持つ本学ならではの取り組みであり、専攻を超えて、平成30年度は学生11人が実践的な学びや制作を行い、6人が最終作品発表会に臨んだ。学生は地元製造業のトップデザイナーからの厳しい指導を受け、自らのデザインが実社会で受け入れられるための方法論を学んだ。</p> <p>地域を代表する企業と協働し、本学の長をを活かした寄付講座により、学生の実践力を育成し充実した成果を挙げたことから、「a」と評価した。</p>	

H30 年度実施計画		公立大学法人広島市立大学の自己評価		外部評価委員会の評価
		記号	評価理由等	記号(SABCD)
取組2 観光関連データベースの構築と活用	事項 ⑦	【データの収集と活用】 4月～3月 (一社)しまなみジャパンと協働して、しまなみ海道サイクリングにおけるGPS位置データ(観光客の行動情報)の収集を行うとともに、観光関連データベースを「観光情報学」の講義・実習等で活用する。	b 事業協働機関である(一社)しまなみジャパンと協働し、しまなみ海道を訪れる観光サイクリストの行動情報をGPS位置データにより収集する調査事業を実施し、尾道市の観光振興の一助とした。 観光関連データについては、SNS情報を中心にコンテンツの登録を進め、平成30年度末現在で総数60万件以上の観光関連データの登録を完了させた。登録した観光関連データの教育研究での活用を進め、地域課題演習や観光情報学での演習素材とした。 事業協働機関との調査事業によるデータ収集やデータの活用を着実にいったことから、「b」と評価した。	取組2 ⑦・⑧について B (3.2)
	⑧	【データの閲覧開始】 4月 参加校・企業・自治体に対するデータベースの閲覧を開始する。	b 観光関連データベースの利用マニュアルやセキュリティ運用のルールを策定し、事業協働機関向けのユーザーID/Passの配布準備を行い、8月から事業協働機関への閲覧を開始した。 ほぼ計画どおりに実施したことから「b」と評価した。	

			<p>プロジェクト全体を通して、学生・教員 140 人以上が参加し、作品の展示、交流等に来場した住民の数は前年度の 3,258 人を大幅に上回る 4,463 人となった。</p> <p>また、芸術学部の学生・教員・OB による地域貢献活動を、事業協働機関のホテルへの壁画制作など企業とのコラボレーションを 3 件、広島市動物公園へのモニュメント制作など地域とのコラボレーションを 2 件実施した。</p> <p>芸術学部をあげた取組として実施地域を積極的に拡大し、地域との連携により活動を進め、一般参加者も多く集めたこと、地域貢献活動を実施したことから「a」と評価した。</p>
⑫	<p>【参加校による協働研究事業】</p> <p>4 月～3 月 参加校による協働研究事業を平成 29 年度に引き続いて実施する。</p>	b	<p>参加校の学部構成や教育方針のもとに、COC+の対象地域において、多くの学生が地域活動に参加する事業を展開した。</p> <p>8 つの事業は以下のとおり(校名/地域/テーマ/実施形態)。</p> <p>①広島大学/呉市/コンテンツツーリズムを活用した地域活性化/調査研究 ②尾道市立大学/尾道市/アートプロジェクト(空き家再生)の実施/地域デザイン(広島市立大学と協働) ③広島経済大学/廿日市市等/学生による観光資源等の再発見と発信/調査研究 ④広島工業大学/廿日市市/宮島土曜講座/市民向け講座 ⑤広島国際大学/安芸太田町・呉市/中山間地域と島しょ部との交流による地域活性化プロジェクト/地域支援 ⑥広島修道大学/広島市/基町プロジェクト「もとまちカフェ」/地域交流(広島市立大学と協働) ⑦安田女子大学/同上/基町プロジェクト「グローバルキッチンプロジェクト」/食文化交流(広島市立大学と協働) ⑧広島商船高等専門学校/大崎上島町/高齢者健康調査/地域支援</p> <p>計画どおり実施したことから、「b」と評価した。</p>
⑬	<p>【参加校との合同発表会の実施】</p> <p>12 月 平成 29 年度に引き続き、観光に関する学生の研究・活動発表会を実施する。</p>	a	<p>学生の観光に関する学習・研究意欲を高め、地域を志向するマインドやネットワークの醸成を図るため、COC+の参加6大学と比治山大学(協力校)が合同で「観光に関する研究・活動発表会」を実施した。広島地域では唯一の観光に関連する大学間交流事業となっている。開催は平成 30 年 12 月 8 日と 9 日の 2 日間、会場は、廿日市市の広島経済大学の宮島セミナーハウス成風館。参加した学生は 64 人、教員は 21 人。</p> <p>発表されたテーマは 12 件。各大学のテーマ設定は、地域への関わり方や分析や考察の方法に特徴があり、多彩なプレゼンテーションが行われた。併せて宮島の景観保存や空間特性などの現地講座と視察を実施した。参加学生のアンケートとして、96%が「他大学との交流により学習・研究上の刺激を受けた」、97%が「広島地域の関心を高めた」と回答した。</p> <p>観光をテーマに、充実した教育研究交流が実施できたことから、「a」と評価した。</p>
⑭	<p>【サテライト講座の実施】</p> <p>9 月～12 月 参加自治体と協働してサテライト講座を実施する。</p>	b	<p>事業協働地域の若い世代の人口流出を防ぎ、地元への定着をいかに図るかが課題となっており、その対策の一つとして、高校生の地域内への進学を促し、ひいては地域内での就職につながるものとして企画し、柳井市と協働して実施した。講座は 3 回開催し、広島市立大学の教員が担当した(内容はアートディレクション、歩行による個人認証の情報技術、アフリカ地域研究入門)。対象は柳井市広域圏 1 市 4 町の 7 校の高校生と保護者で、平成 30 年度は 53 人が参加した。</p> <p>広島地域に所在する各大学の説明を行い、地域内進学を促した。</p> <p>計画どおり実施したことから、「b」と評価した。</p>

H30 年度実施計画		公立大学法人広島市立大学の自己評価		外部評価委員会の評価
		記号	評価理由等	記号(SABCD)
取組4 事業運営 (実施体制の整備等)	事項 ⑮	【ニュースレターとホームページによる広報】 9月・3月 事業広報のためニュースレターを発行(2回)する。 4月～3月 ホームページを更新し情報提供に努める。	b ニュースレターの発行は、平成30年12月に第9号(地域課題演習、学生の観光研究活動発表会等)、平成31年3月に第10号(アートプロジェクト、地域貢献特定プログラム等)をA4版4ページで発行し、配布した(各3000部)。 事業活動の紹介として大学広報誌やパブリシティを活用するとともに、COC+の専用ホームページを随時更新し情報提供に努めた。 ほぼ計画どおり実施したことから、「b」と評価した。	取組4 ⑮～⑲について B (3.8)
	⑯	【協働協議会の開催】 1月 COC+事業協働地域協議会を開催(1回)する。	a 事業協働協議会の会議を、平成31年1月24日に広島市立大学サテライトキャンパスにおいて開催した。協議内容は、平成30年度事業の実施状況、平成31年度の事業計画案、平成29年度の外部評価結果の報告であり、事業の進捗状況と今後の展開等について情報を共有し意見の交換を行った。参加は26の協働機関から43人であった(平成29年度は31の協働機関から48人)。 併せて、地域活動の報告として、アートプロジェクト(芸術学部金属造形の学生による宮島金工プロジェクトの実施状況と作品展示)、地域課題演習(国際学部及び芸術学部の学生による三原市佐木島での演習内容と観光に関する提案)の2件の発表を行った。 協働協議会の会議に加えて、学生の活動発表を実施したことから、「a」と評価した。	
	⑰	【COC+フォーラムの開催】 1月 参加校・企業・自治体に呼びかけCOC+フォーラムを開催する(1回)。	a COC+フォーラム2018を、長崎大学との共催、観光情報学会等の後援により、平成30年11月16日に広島市総合福祉センターホールにおいて開催した。 テーマは「ICTによる観光情報を活用した観光振興」とし、観光業界の課題である科学的な施策立案やデータによる経営イノベーションなど、業務改善の参考となる先駆的な4つの事例を紹介して知見を共有した。参加者は自治体、観光事業者、大学など67人。アンケートでは、88%の参加者が、満足度が高いと回答した。 長崎大学との共催により実施し、観光情報に関する最新の動向を内容とし、参加者の満足度も高かったことから、「a」と評価した。	
	⑱	【担当する教員等の雇用】 4月～3月 事業の調整、実施、進行管理にあたるCOC+を担当する教員6名を継続雇用する。	b 平成29年度に引き続いて、COC+推進コーディネーター(特任教授)1名、教育研究担当特任教授1名、事業協働地域調整担当特任准教授1名、教育研究担当特任助教1名、観光関連データベース担当特任助教1名、アートプロジェクト担当特任助教1名を雇用し、全体で6名の体制で事業を推進した。 計画どおり実施したことから、「b」と評価した。	
	⑲	【評価委員会による評価の実施】 6月 COC+外部評価委員会を開催し、平成29年度事業の評価と評価報告書を作成する。	b COC+外部評価委員会を、平成30年7月18日に開催した。 平成29年度事業の評価結果は、『事業を安定的に推進するとともに、従前の課題を解決しながら積極的に事業の改善や新しい企画に取り組んだ。特に、事業の重要な柱である「教育カリキュラムの整備・推進」と「観光振興を目的とした教育研究事業の立案・推進」において、事業内容を拡充して実施した。こうした、当初計画の着実な実施及び付加的な実施により、平成30年度以降の取組において、さらに事業全体の熟度を高めることに弾みを付けたと評価する』として、総合評価は「A 計画を上回った実績を挙げている」とされた。 また、平成29年度の事業報告書を作成し、外部評価委員会に提出した。 開催時期を除けば、計画どおり実施したことから、「b」と評価した。	

広島市立大学
地(知)の拠点大学による地方創生推進事業

平成 30 年度 事業報告書

令和元年(2019 年)7月

編集・発行 公立大学法人 広島市立大学 社会連携センター
広島市安佐南区大塚東 3-4-1 〒731-3194
Tel 082-830-1842 Fax 082-830-1705
URL <http://www.cocplus-hiroshima-cu.com>
e-mail shakai@m.hiroshima-cu.ac.jp

広島・山口
Area25

広島・山口
Area25

COC+ REPORT/2018

公立大学法人広島市立大学 地(知)の拠点大学による地方創生推進事業 平成 30 年度事業報告書